

私は11年振りでこの盛岡へ来て、種々市街の様子などを見てその変化に驚いたが、殊に興味を喚起したのは、三田義正氏が私財を投じて岩手中学校を設立した事である。それで今日は私から進んで先生方や諸君に逢い、お話をしたいと思った次第であるが時間が乏しいので機会を見て再会を期し、様々なお話も承り所見をも披歴したいと思うのであります。

今回は墓参のため来たので、明日直ちに三本木にむかわなければならぬし、今日もこれから前約の所にも参らなければならぬから、少の時間で私が思う事の一端を申し述べるのであります

何でも物を始めると言う事は、所謂創業難で容易なものではない。殊に邦人は人のすることを好意で見ない。彼は売名の為にやるのだらう。彼は別に利する所あって目論んだであらう。と言うように何事でも常に嘲笑、罵りをもって迎える悪いくせがあるので誰も心から力を尽くして金銭をなげうって仕事に取り掛からないのである。

それを、三田氏が百難を排してこの事業を創成した事は、その人格に偉い所、床しい所があるのである。

諸君は！歴史も沿革もない、白紙のような新設の学校を双肩に背負って立つのであるから、校風の樹立については責任も重い代わり、極めて愉快的意味があるのである。

よろしくパイオニヤ・スピリット、即ち先駆けの精神で立って行かれない。

自分の信ずるところは千万人といえども吾行かんの意気で進めたいのである。  
「右顧左眄」は甚だ生氣のない仕事だと思うのである

私は外国に居ると右の頭が痛み、本国に滞ると左の方が重い感じがするのである。それは外国に居ると紳士としての作法、少しでも公德に背くような事があっては自分一人の為でなく、邦人全体に関することなどを思い右の頭が痛くなり国へ帰ると気兼ねや取越苦勞が多いので左の方の頭が重くなるのである。

諸君は、新しい学校の創業をして行くには、下らぬ他人の毀誉に頓着せず、一大新機軸を押し出して立たなければならない

外国では、独、英、仏、皆このパイオニヤ・スピットを尊び、米国は特に然りである。イタリアなどは保守的なところがあるいえようが、西欧諸国一般の風潮は、皆、この先駆の精神を尊ぶのである

私は今の米国は大嫌いだが、米国の建国精神、即ち、パイオニヤ・スピリット敬服に値する。従って、これまでの燦然たる文化は科学なり、文学なり、その他教育、産業に至るまで、彼に一日の長あることを認めねばならぬ。しかしながら、排日法案実施以来

私は米人を大嫌いになり、家内は米国人であるので、今回、帰朝するについても、米国を廻る方が順路で、かつ、ついでに親戚巡りも出来るけれども、私は、米人に逢うことには非常に嫌になったので、日本に真っ直ぐ来た次第である

私は頻りに諸君にバイオニヤ・スピリットを推奨するが、トラデションな因習とか伝統とかいう精神は、愛国心とか大和魂とかいう精神の涵養などに必要な事ではあるが、之に拘われてはいかぬということである。

聖人の教えにも「温故知新」ということがあるが「温故」だけでは、この世界文化の進運に伴うことは出来ぬのである。

昔、ナポレオン一世は、ある制度を設ける必要から、国の重臣を集め会議を開いたときその重臣の人々は、皆、古い因習や仕来りを述べると、皇帝は声に応じてアイ・アム・アン・アンセストア、訳すと「私は祖先である」といった事は有名な話である。

諸君は、国家のため、母校のため、このバイオニヤ・スピリットを奮起し新たなる校風の創成に先駆をつけられたいのである

この精神で努力していった結果は、10年20年の後に、お互いに思いあたることがあると思うのである。

(原文のまま)